



21世紀を担う子どもたちのために、 明るい地域社会を築きたい

21世紀の高齢社会、国際社会の到来を目前にし、しかも我が国の小児化現象を合わせ考えるとき、今日ほど新時代を背負う子どもたちが心身ともに健康で育つてくれることの大切さを痛切に感じる時はありません。しかもいじめによる自殺まで発生していることの重大さを私たち市民がもう一度真剣に考える必要があるのではないのでしょうか。いじめ問題の解決を学校だけに押しつけるのではなく家庭、地域、社会が一体となって問題がどこにあるのかをつきとめ、

市長の いじめ問題に 取り組む姿勢



その対策を考え、実行に移すときがきていると考えます。

そこで、私は今年の5月に教育委員会とは別に原田元市立中学校長を座長とし、竹内前県教育長をはじめ、大学教授、青少年補導員、家庭児童相談員などで構成される「いじめ根絶対応委員会」を発足させました。また、いじめの相談窓口も従来の「市教育センター」に替えて市役所1階の市民相談室内に、新たに「心のふれあい相談室」を設置し、常時1名の相談員が相談にあたる体制をつくりました。

その対応を考え、実行に移すときがきていると考えます。そこで、私は今年の5月に教育委員会とは別に原田元市立中学校長を座長とし、竹内前県教育長をはじめ、大学教授、青少年補導員、家庭児童相談員などで構成される「いじめ根絶対応委員会」を発足させました。また、いじめの相談窓口も従来の「市教育センター」に替えて市役所1階の市民相談室内に、新たに「心のふれあい相談室」を設置し、常時1名の相談員が相談にあたる体制をつくりました。

以上が、いじめ問題に対する具体的な取り組みと対策のヒントとして考えられるご意見の一部です。最後に、いじめ問題の解決に向けて「あせる心」は禁物です。この問題は心の問題が大きく、時間がかかるものです。大人は学校と家庭、地域社会で大きな温かい愛を持って子どもたちを包んでいきたいものです。

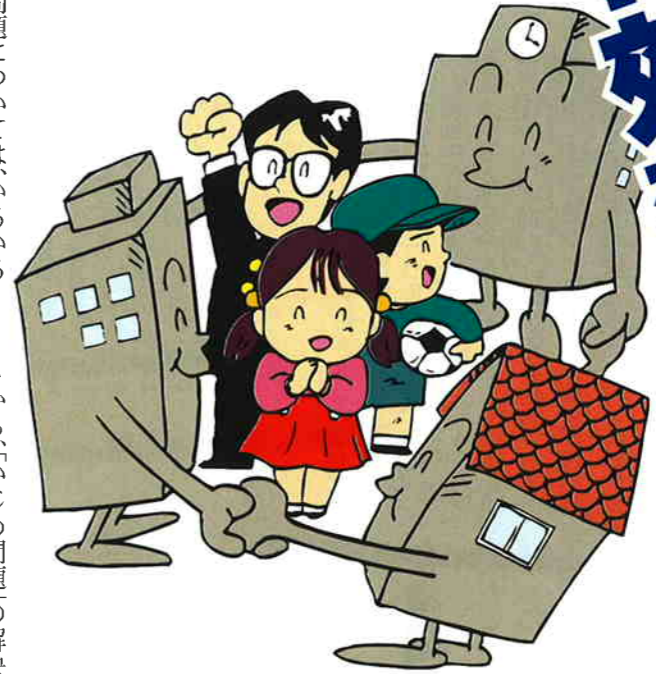
いじめ問題を考える パート2

特集

いじめ問題に

特効薬

はないけれど



いじめ問題についてはいろいろななかたが、いろいろなことを考え述べています。学校が悪い、社会が悪いからと責任を転嫁して語ることは簡単です。が、実際に悩み苦しんでいるかたにとっては、本当に切実な問題であるはず。世間体を考え、理想を語っていても解決しない問題が多いのです。そこで、必要になってくるのは本音です。いじめ問題に必要なのは、本音で取り組むことです。今回、皆さんからお寄せいただいたアンケートから、「いじめ問題」の解決の糸口となるような本音の「意見」をまとめ、紹介してみたいと思います。

とが大切です。親ごさんのなかには、どうしても見つけられないというかたもいるかもしれません。そのときは、学校の先生や身近なかたに相談してでも子どもの長所を見つけてる

力が惜しまないことです。いじめられっ子は、たいていの場合消極的な性格が多いようです。ですから、この消極的な部分を取り除くため、親が積極的思考を持つこと

が必要があります。◆理論的な思考を持つことも有効です。一般的に、冷静な目で周囲の状況を判断することは、いろいろなトラブルの発生を少なくします。◆文部省は、いじめに遭った場合、かけこみ寺のように、一時、退避する必要があるという考えを示しています。また、転校なども方法のひとつであると言っています。まず、心を安らかにしてから、自分を振り返り、その後

の対応を考えることも必要です。◆親が子どもをほめ励ますことは大切です。子どものよい点、努力していることを認めてあげることが大事なのです。勉強やスポーツができなくても、だれもほめてくれなくても、そういう人が大人になれば大成することもあるのだというように、将来の希望を語ってあげることも必要です。親がほめず、状況の改善をあきらめてしまつては、子どもは立ち直る

ことができないでしょう。◆マスコミの自殺報道がありますが、この報道で自殺の連鎖反応を呼ぶこともあります。アメリカなどでは、この現象をウイルスとして扱い、真剣に対策を立てて対処をしています。この現象を防ぐには、報道の在り方の是非を考え直すことも必要です。そして我が子には、強く生きることの大切さと、命の尊さを日ごろから語っていくようにすることも大事です。また、そのためには親の人生観や倫理観など、常に子どもを指導できるような教養を高める努力が大切です。



いじめ問題の 根本的な解決を

いじめ根絶対応委員会

いじめ根絶対応委員会は、市長の発案により5月25日からスタートした組織です。この対応委員会が、9月14日(土)に第5回目の委員会を教育センターを会場として開催しました。今回の委員会では、委員のメンバーに加え、狭山市のA.E.T(語学指導助手)の5名の皆さんにも参加していただき、A.E.Tの皆さんの祖国でのいじめ問題事情や対策方法などをお聞きしながら、今後の狭山市でのいじめ問題根絶に向けた対策の参考にと、国際的な視点での検討をいたしました。

この委員会終了後、同センターにおいて、いじめ根絶対応委員会の委員長・原田氏、同メンバー(前埼玉県教育長・竹内氏、市教育長、市長の4名による座談会を開催しました。座談会のテーマは「家庭での教育の在り方」で、地域、学校、家庭の教育の在り方などを、それぞれの立場で分かりやすくコメントしています。

なお、内容をご覧になりたいかたは狭山ケーブルテレビの「ちゃっぴい撮影隊」で10月19日(土)〜25日(金)に放送する予定です。ぜひ、ご覧ください。